

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

飯盛山ー八ヶ岳の展望台ー

飯盛山の麗姿(夏)



9月上旬、小海線・清里の友人G氏の別荘を訪ねた折、飯盛山(1653m)に登った。茶碗に飯を盛ったような形のこの山は、マツムシソウの群れ咲く山としても人気が高い。

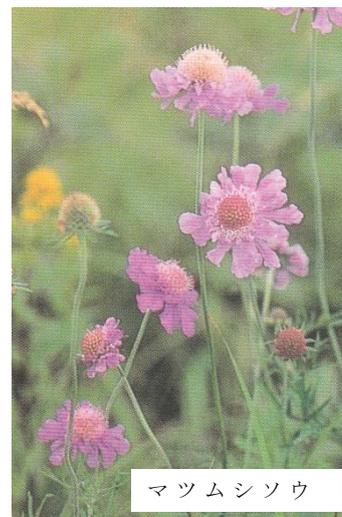
10時野辺山駅を出て飯盛山登山口までの30分、国立天文台の大きなパラボラアンテナを左に見ながら、高原野菜畑の中の車道をテクテク歩く。登山口からは、林道に沿うほとんど高低差のない雑木林の小道をたどり、11時10分、獅子岩のある平澤峠に出た。峠から10分程登った所に西面の開けた広場があり、八ヶ岳連峰の雄大な全貌が眺望出来る。数組の登山客を前に、ベテランらしいオッサンが山の説明にウンチクを傾けていた。

平澤峠からの八ヶ岳



ここから灌木帯の中の岩ゴロの緩い登りが続き、やがて道が尾根筋に変わり、左下にのべやまスキー場の照明塔群が見え始めて間もなく12時20分、平澤山に到着した。すぐ目と鼻の先に、名前どおりの形の飯盛山が鎮座します。9月だというのに頂上付近は人で溢れて見

えた。12時半、一応飯盛山山頂を踏んだが、人の多いのに嫌気がさし飯盛山と平澤山の間鞍部の草原まで戻り、大休止の腰を下ろした。この付近のマツムシソウは今が真っ盛り。青紫色の花の大群生の中に埋もれて弁



マツムシソウ

当を広げ、幸せな一時を過ごした。そろそろモヤってきて、八ヶ岳の峰々は何とか見えるが、南アルプス、富士山、奥秩父は遠く霞んでいるのが残念だった。

下りは平澤集落経由で清里駅に向かう。山頂出発13時15分。岩溝状のやや急な下りをこなした後は広々とした平澤牧場の草原の中ののんびりした下り。

平澤牧場からの平澤山・飯盛山



あちこちに放牧の牛が草を食んでいるのが、いかにものどかである。そのうち草原は雑木林に変わり、平澤集落を過ぎた後は、一転して舗装道路をせつせと歩き、15時清里駅に到着した。

この駅の界限は、東京の原宿にも似て、着飾った女の子達で溢れる別世界である。山姿のババッチいオジサンの通り抜けが気恥ずかしい程である。ようやく駅前でG夫人の車に拾い上げられ、G氏自慢の別荘に赴いた。その夜は降るような満天の星空を眺めながら庭での大バーベキュー。山談義にすっかり酒が進んだ。